

地域医療連携だより

えん

発行日：令和7年10月 発行所：富山赤十字病院 富山市牛島本町2丁目1番58 TEL. 433-2492 発行責任者：時光 善温

大人の食物アレルギーにも対応しています

小児アレルギーセンター長 足立 雄一

当院では、2023年4月より小児アレルギーセンターを開設し、食物アレルギー、喘息、鼻炎、アトピー性皮膚炎などのお子さんを中心に診療しています。一方、成人では通常、喘息は内科、鼻炎は耳鼻科、アトピー性皮膚炎は皮膚科で診療を受けますが、食物アレルギーの受け皿となる診療科が少ないことが全国的に問題になっています。そこで、日本アレルギー学会が中心となって、成人食物アレルギー診療機関の情報をまとめて、先ごろその結果が公表されました(下のURLから見ることができます)。当院では、今まで小児アレルギーセンターが中心となって「成人年齢に達した小児期発症」ならびに「成人期発症」の食物アレルギー患者さんの診療に当たっています。成人の食物アレルギーでは寛解を目指すことは容易ではありませんが、診断や管理でお困りの症例がありましたら、ご紹介ください。



一方、小児の食物アレルギーは、積極的に食物負荷試験を行うことで、原因食物の完全除去の期間を短くして耐性獲得を目指すことが可能です。当院では昨年度100名以上で負荷試験を行いましたが、病棟看護師等によるきめ細かいチェックのもとで実施しており、アナフィラキシーに至った例はありませんでした。さらに、負荷試験中に日本栄養士会認定食物アレルギー分野管理栄養士による栄養指導や日本アレルギー疾患療養指導士による服薬指導などアレルギー診療に精通した多職種による総合的な管理を行っています。また、重症アトピー性皮膚炎の幼児や学童に対して生物学的製剤を用いた治療も行っています。月に1回の注射は子どもたちにとってかなりの負担となりますが、外来看護師による十分なプレパレーション(事前の説明や配慮)のもとで少しでも肉体的ならびに精神的負担が少なくなるように工夫して治療に当たっています。

最後に、日本アレルギー学会と厚労省が共同で立ち上げたウェブサイト「アレルギーポータル」のURLをお示します。ここには医療関係者、行政、患者・家族向けの情報が数多く掲載されており、多くは無料でダウンロードできます。ご活用いただければ幸いです。



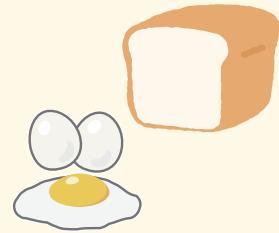
<https://allergyportal.jp>

小児の食物負荷試験

7階西病棟師長 辻口 てるみ

昔はアレルギーがあるとその食品を避けて食事をすることが勧められていました。今はアレルギーのある食品を少量ずつ食べてアレルギー反応がないかどうかを確認する試験を行うことで、万が一間違って食べることがあってもアレルギー反応をひどく起こさずに済み、食べられなかつた食品が食べられるようになります。これが食物負荷試験です。

当院は2023年4月より足立医師と共に小児食物負荷試験を始めており、最初は数人でしたが現在は火・木曜日の2日間は食物負荷試験のお子さんが入院されます。万が一に備えて点滴や吸入を準備して安全を確保した上で実施します。摂取する食品は医師の指示の下、家族に持参してもらいます。例えば卵は十分に加熱した卵焼きを持参してもらったり、市販品のパンやお菓子を利用したりして、お子さんが不安なく食べてもらえる食品を使用します。アレルギー食品のため普段から食べ慣れておらず初めて食べる食品に不安を示されることもあります。そんな時はご家族と一緒に過ごしてもらい、安心して食べてもらえるように優しく言葉をかけたり、少し離れて様子を見たりします。摂取後は経時に体調の観察を行い、医師と共に対応をしています。年に一度、医師とともにアナフィラキシー症状に対応する訓練を行っています。アレルギーをお持ちの方は一度相談をしてみませんか。



新たに地域医療連携の会に加入いただいた医院や先生の紹介

しまざきこどもクリニック

院長 島崎 圭一

金沢 真希子先生

富山県射水市小島902 TEL 0766-52-0173

●自院PR



このたび、生まれ故郷である射水市に、地域で暮らす子どもたちとそのご家族により身近に寄り添える存在でありたいとの思いから、「しまざきこどもクリニック」を開院いたします。研修医修了後から一貫して小児科を専攻し、病院での勤務を通して、さまざまな病気のお子さんの診療に取り組んでまいりました。地域に根ざした“こどもたちのホームドクター”として、体調の変化や育児の悩みまで気軽にご相談いただけるクリニックを目指しています。今回、富山赤十字病院にて、日本的第一線でご活躍されている足立先生にご承諾をいただき、アレルギー診療を学ばせていただく機会をいただきました。専門的な知識に加え、大きな病院とクリニックの役割や連携のあり方にについて多くを学ぶことができました。今後は、安心してご相談いただける地域の医療機関として努めてまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。



完成予想図(2025年11月頃完成予定)

*当院での見学や研修を希望される医師の方は、ぜひご連絡ください。

富山赤十字病院 小児科スタッフ一同
お問い合わせは、小児科外来までお願いします。

ウエイト・コントロール外来のおしらせ

総合内科部長／糖尿病・内分泌・栄養内科部長 川原 順子

健康障害を伴う肥満は「肥満症」という病気と認定されました。糖尿病や高血圧のみならず、関連する疾患は多岐にわたります。そして、食事運動療法のみの減量が非常に難しいことは、身にしみて感じてきました。

週1回の糖尿病の注射薬(セマグルチド、チルゼパチド)は、血糖降下作用とともに体重減少効果も高く、2024年に肥満症の治療薬として保険収載されました。これらの薬剤を使った肥満症治療を行うには、日本循環器学会・糖尿病学会・内分泌学会の教育認定施設であることが必要要件であり、当院では、糖尿病外来に通院している患者さんを対象にした処方が始まっています。肥満症治療が必要な地域の患者さんに広く利用いただきたいと考え、2025年8月より肥満症治療の専門外来「ウエイト・コントロール外来」を設けました。

週1回の自己注射の肥満症の治療のご希望がありましたら、地域連携室をとおしてご紹介ください。お待ちしています。

肥満症が関係する健康障害

糖尿病、高血圧、脂質異常症
心血管疾患
痛風
非アルコール性脂肪肝炎・肝硬変
睡眠時無呼吸症候群
女性不妊・月経不順
運動器疾患；変形性膝関節症など
肥満関連腎臓病

肥満症 薬物治療の適応

高血圧、糖尿病、脂質異常症のいずれかを有し、適切な薬物治療を受けている

BMI35以上

BMI27以上35未満
2つ以上の健康障害がある

肥満症の薬物治療を受けることができます

6か月以上の食事・運動療法ののちに、週1回の自己注射を約1年半継続します

肥満症治療のながれ

診察

- ・問診・身体診察・二次性肥満の除外
- ・食事や運動状況の聞き取り

食事・運動療法

- ・6か月に3回以上、管理栄養士による指導
- ・減量効果を確認

薬物療法

- ・ウゴービ68週、ゼップバウンド72週
- ・2ヵ月に1回以上の栄養指導

第91回地域医療連携の会

令和7年8月6日(水)午後7時より、ANAクラウンプラザホテル富山において「第91回 地域医療連携の会」を開催いたしました。開業医の先生方58名、当院医師・看護師等49名、総勢107名の参加がありました。富山県厚生部 有賀部長、富山県医師会 村上会長、富山市医師会 舟坂会長、富山県看護協会 岡本会長より来賓のご挨拶を賜りました。当院竹村院長の「地域連携におけるハートチームの役割 心臓血管外科医からの見方」と題し講演がありました。引き続き行われた懇親会では、豊田魚津クリニック院長 魚津先生からご挨拶を賜り、当院から「肥満症の薬物治療 ウエイト・コントロール外来」についてご紹介させていただきました。豊赤バンド with TAKEMURAによる演奏と共に、地域の先生方と楽しいひと時を過ごす事ができ、地域医療連携の輪もより一層広がったように思います。今後とも地域の先生方との連携を図り、地域医療の推進に努めていきたいと思います。



豊田魚津クリニック院長 魚津 幸蔵 先生



豊赤バンド with TAKEMURA

地域連携におけるハートチームの役割 —心臓血管外科医からの見方—

富山赤十字病院 院長 竹村 博文

当院は、富山県地域医療支援病院、富山県災害拠点病院として日々、急性期医療、災害医療と支援に邁進しております。そして地域医療を支えることも最も重要な使命と認識し、当院の基本方針の3番目に、地域医療に貢献する病院を目指しますと明記しています。

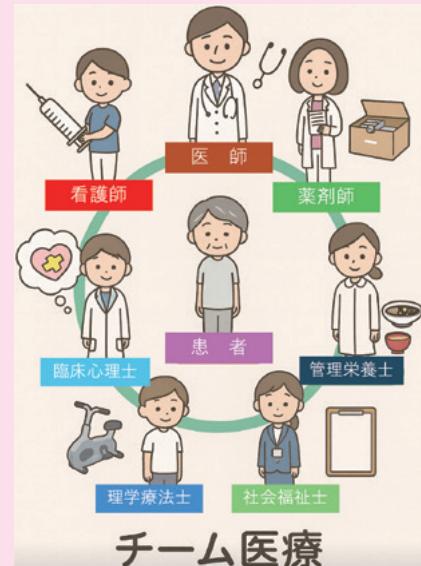
団塊の世代が75才以上となる2025年に向けて、現行の地域連携構想が施行されてきて、病床機能の分化、連携が一定の成果を上げてきました。すなはち、富山県においては2015年から2023年にかけて13,600床から11,300床に減少し、特に急性期と慢性期病床数が減り、回復期病床が増加しました。今後2040年に向けて、85才以上の人口増加に伴い、高齢者救急搬送増加や、在宅医療の需要増加、また医療従事者の減少から、入院医療だけではなく、在宅医療、介護との連携を強化する新たな地域医療構想が始まっています。当院はこのなかにおいて、これからも急性期治療を担う病院として努力していく方針です。



私はながらく心臓外科医として働いてきました。20年前までの外科と内科の関係は、循環器内科医が狭心症などの病気を発見して、適応があれば心臓外科医に手術を依頼し、術後また循環器内科にお戻しする形でしたが、その後はカテーテル治療が台頭てきて、より低侵襲で治療が可能となり、循環器内科が多くの狭心症の治療を行ってきました。しばらくの間、内科と外科で患者さんの奪い合い？がおこっていましたが、やはりその状況はよくない、エビデンスに基づいて、正しい治療を提供しなければならないとの反省から、世界の施設が協力して、大規模研究を行い、やがてガイドラインとして発表されて、今ではそのガイドラインに沿った治療がなされていますし、ガイドラインに沿った治療選択が、治療成績がいいということまで分かってきました。

さらに新しい地域医療構想のなかでは、急性期病院と治療後の回復と介護を含めた包括医療が必要とされます。患者さんを中心において、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、社会福祉士、理学療法士、臨床心理士の多職種で、急性期から回復期、時には介護、在宅まで地域で患者を守る方針がとられています。心臓疾患でいえば、カテーテル治療や、手術治療後に、まずは院内でリハビリを行い、可能なら回復期機能の施設に移動しリハビリ継続、そして自宅へと誘導する。特に心不全に関しては、今後は地域連携パスを稼働させ、地域で見守ることが重要であると言われています。

当院は今後とも、急性期病院を目指して、地域と連携の中で地域医療を守っていく所存です。今後とも富山赤十字病院をよろしくお願いいたします。



9月はがん征圧月間、 10月は乳がん早期発見強化月間です

がん相談支援センター 小川 恵梨

今年もがん相談支援センターでは、2階やすらぎホールにおいて9月はがん征圧、10月は乳がん早期発見強化月間の啓発事業を開催しております。がん征圧月間は、「健康は 予防と検診の二刀流」(公益財団法人日本対がん協会2025年度がん征圧スローガン)のもと、がん予防やがん検診の情報を発信し、がんに対する理解を深めて頂けるようポスター掲示を行いました。10月の乳がん早期発見強化月間は、乳がんの早期発見、早期治療についてポスター掲示を行いました。また、10月15日(水)のやすらぎの会では、当院乳がん看護認定看護師によるミニレクチャーを行いました。



昨年の開催中の様子です。
乳がん月間は10月1日～24日開催です。

11月、12月の外来診療に関する医師不在日案内

11月

科名	医師名	不在日
歯科口腔外科	石戸 克尚	25日(火)
	尾崎 恵悟	13日(木)、14日(金)
脳神経外科	桑山 直也	5日(水)、7日(金)、12日(水)、14日(金)
	足立 雄一	7日(金)、21日(金)
	津幡 真一	20日(木)
小児科	眞島星利奈	18日(火)PM
	赤荻 勝一	20日(木)
	賀来 文治	12日(水)、13日(木)
泌尿器科	長坂 康弘	6日(木)、7日(金)、25日(火)、26日(水)
	上田 太郎	17日(月)、18日(火)

12月

科名	医師名	不在日
歯科口腔外科	石戸 克尚	3日(水)、5日(金)、8日(月)
	足立 雄一	19日(金)、22日(月)
小児科	津幡 真一	25日(木)
	眞島星利奈	24日(水)PM
内科	眞井 友貴	12日(金)



※不在日には、代診を立てております。

新任医師の紹介

どうぞよろしく
お願いいいたします。



糖尿病・内分泌・
栄養内科部医師

上岸 未樹



麻酔科医師

三吉 慶昌



患者支援センターからのお知らせ



「第92回地域医療連携の会」



日 時：令和7年11月19日(水) 午後7時から

場 所：富山赤十字病院 教育研修棟 3階講堂

演 題：◇「ウエイト・コントロール外来の実際」

総合内科部長／糖尿病・内分泌・栄養内科部長 川原 順子

◇「代謝機能障害関連脂肪性肝疾患(MASLD)について」

消化器内科部長／肝臓内科部長 時光 善温

※みなさまの参加をお待ちしております。

2025年度から富山赤十字病院の患者支援センターに入職いたしました、羽石暖希と申します。

今回はじめましてのご挨拶ということで、私が福祉の道を志すきっかけをお話したいと思います。私が大学で福祉を学び始めたころ、祖父母が相次いで病気を患いました。祖父は最後まで自宅で過ごすことを希望し、祖母も脾臓がんでできる限り自宅で生活し、その後は緩和ケアで過ごしました。祖父母が最後まで希望する生活を送ることが出来たのは、地域のケアマネジャーや関係職種の皆様、社会福祉士のおかげだと感じました。この経験から私は、患者さんが望む生活を送るための手伝いをしたいと思い社会福祉士という仕事を選びました。



まだ、分からぬことが多いですが、一つひとつできることを増やしていくたいと考えています。これから皆様にご迷惑をおかけすると思いますが、皆様と共に患者さんやご家族に寄り添った支援ができるように一生懸命取り組んでいきます。これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

(患者支援センター 社会福祉士 羽石 暖希)

編集後記

紹介依頼など、下記までお問い合わせください。

富山赤十字病院
患者支援センター

TEL : 076-433-2492 FAX : 076-433-2493

e-mail : byousinrenkei@toyama-med.jrc.or.jp

夜間・休日のお問い合わせは…TEL : 076-433-2222(代表)

Fax : 076-433-2410(夜間・休日のみ)